

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-134	12-066	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>How is an electronic screening and brief intervention tool on alcohol use received in a student population? A qualitative and quantitative evaluation.</p> <p>学生に受けさせる飲酒に関する電子媒体スクリーニングと短期介入ツールはどのようなものか？質および量の評価</p>		
<b>執筆者</b>		
Fraeyman J, Van Royen P, Vriesacker B, De Mey L, Van Hal G.		
<b>掲載誌</b>		
J Med Internet Res. 2012 Apr 23;14(2):e56.		
<b>キーワード</b>		
アルコール、学生、介入		
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b></p> <p>Antwerp の大学生における以前の研究にて、問題のある飲酒のリスクは女子学生 (10.2%～11.1%) よりも男子学生 (1.8%～6.2%) で多いということが示された。最新の論文によって大学生のこの問題を扱う電子媒体を用いた短期介入の可能性とその効果に関して期待できる結果が示されている。我々はこの課題について現存する論文を引用し評価し、ウェブサイト <a href="http://www.eentjeteveel.be">www.eentjeteveel.be</a> を開設し、問題のあるアルコール使用のある大学生に飲酒量を減らしより進んで援助を求めよう動機を与えることを目的とした。</p> <p><b>方法：</b></p> <p>ウェブサイトは学生の飲酒状況を調べるための学生へのアンケート (アルコール使用障害同定テスト(AUDIT)) を含めた。AUDIT のアンケート回答は、すぐに個別のフィードバック (個人の AUDIT スコアに加え飲酒関連リスクに関する情報) とさらなる行動への提案を受けた。その後、学生は質問、指導や助言に関して学生カウンセラーに E メールを送ることができた。学生の意見や経験に関するより深い情報を得るために、我々は 5 つの課題に対してグループ議論を行った。その課題は、公開、経験、印象、ウェブサイトの効果である。我々はオンラインテストの質的結果を SPSS 15.0 にて解析した。</p> <p><b>結果：</b></p> <p>3,500 名以上の学生が上記サイトに訪れ、半分以上が男性 (55.0%) であった。34 名の学生がグループ討論に参加した。介入を評価する質と量の混合手法により徹底的に解析を可能にし、相補的な結果が明らかになった。学生の受け入れはよかったが、ウェブサイト公開、学生に中間評価後の付加オプションを与えるなどいくつかの点が再検討された。介入は学生が自らの飲酒について考える動機を向上させたが、学生が行動変容を起こすよう刺激はできなかった。比較的女子生徒より男子生徒が、低リスク群より高リスク群の学生がウェブサイトに惹きつけられた。高リスク群 (23/400、6%、<math>\chi^2=32.4</math>、<math>P&lt;0.001</math>) は低リスク群 (34/1714、2%、<math>\chi^2=32.4</math>、<math>P&lt;0.001</math>) よりも助言、指導を求める傾向があった。</p> <p><b>結論：</b></p> <p>我々は学生の介入に関しての経験、意見、認識への独自の知見を得た。その結果から、介入は学生集団に前向きに受け入れられ、さらなる援助を求められたことが示された。しかしながら、現実の行動変容についてはさらなる研究が必要である。この研究の結果は医療提供者や研究者が学生の e 健康イニシアティブの認識を理解するのを助けるものになるう。</p>		